# サケ watching in 韓国の釜山 (Busan, Korea) @2016 (1/9ページ)

日本スタイルの「大衆」居酒屋

「大衆」居酒屋と「高級」和食店で、日本のサケを観察

- 釜山一の繁華街、西面（ソミョン）。何軒かある日本居酒屋のなかで、「鶏小舎」に入った。インテリアは日本の昭和レトロ。メニューには日本語も併記されるが、日本語会話は通じない。当方以外の客はすべて韓国の人、しかも若い人ばかり。100席以上あるが週末の夜10時は満席で、10分ほど待ってようやく席につく。
- お勧めサケメニュー（写真のように大型ポップで紹介）は、「松竹梅・天」500ml紙パック（15,000ウォン＝約1,350円）と、「鶏小舎」オリジナルラベル720ml（35,000ウォン＝約3,150円）の2品。注：1ウォン＝約0.09円換算
- 韓国の日本居酒屋では「紙パック日本酒」を飲むスタイルが定着している。「松竹梅・天」500ml紙パックを飲むテーブルが散見される。
- 当方は「鶏小舎」オリジナル720mlをオーダー。中身は朝日山の「ナナニイマル」で、とても美味しかった。「大阪おでん」（という名前のメニュー。写真のようにスープ入り土鍋で出るのが韓国式。9ページ参照）も旨い。

「高級」なジャパニーズレストラン

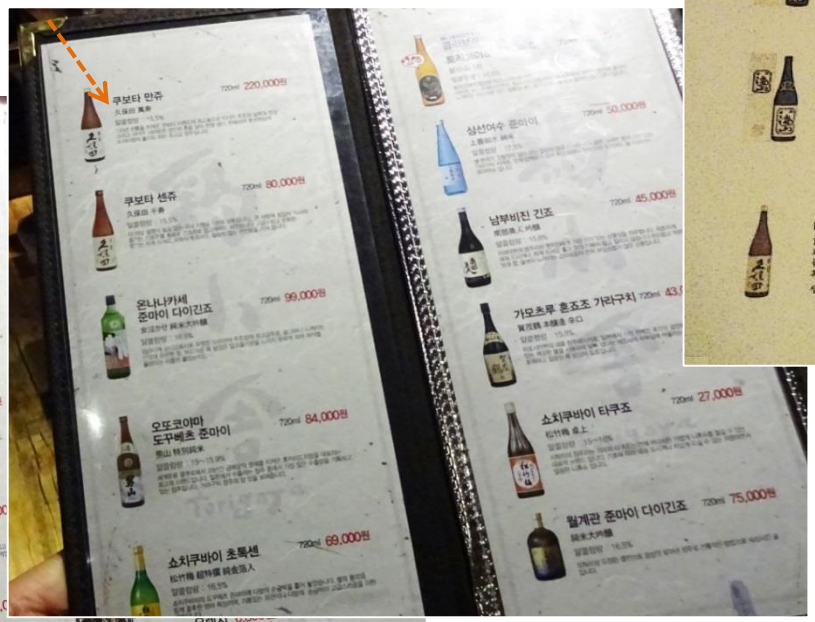
- 釜山ロッテホテルの43階にある、日本料理の「桃山」は釜山の高級和食店のひとつ。店内の雰囲気は日本の一流ホテルの和食店と同じ。もちろん日本語でOK。ガラス冷蔵庫に入るのは、獺祭、久保田、八海山、上善如水、赤霧島など。
- 「上善如水」純米吟醸300ml びん（73,000ウォン＝約6,570円）と、「久保田千寿」本醸造360ml（同じく73,000ウォン＝約6,570円、ガラス徳利）を美味しくいただきました。大衆店と高級店のお酒の差はこの程度。なお、高級店だけあって料理もとても洗練されている。

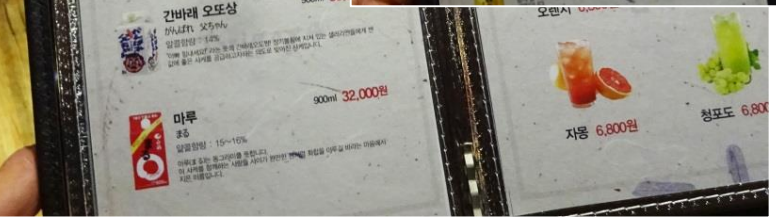
# サケ watching in 韓国の釜山 (Busan, Korea) @2016 (2/9ページ)

「大衆」居酒屋と「高級」和食店で、日本のサケを観察

日本スタイルの「大衆」居酒屋

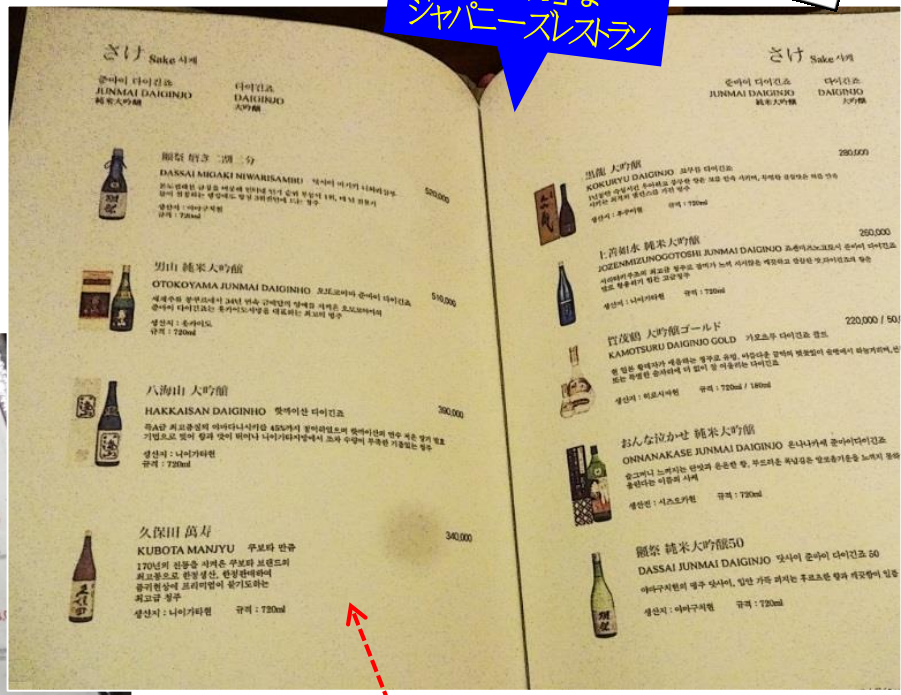
- 「鶏小舎」のお酒メニュー。拡大してもらうと価格が読めるが、いくつか書き出せば、「久保田・萬寿」220,000ウォン（＝約1万9,800円）、「久保田・千寿」80,000ウォン、「上善如水・純米」50,000ウォン、「賀茂鶴・本醸造」43,000ウォン、「松竹梅・卓上」27,000ウォン（以上すべて720mlびん）。
- 左側のほうは、「月桂冠・純米750ml（米国製）」28,000ウォン、「松竹梅・澪300ml」27,000ウォン、「がんばれ父ちゃん900ml紙パック」30,000ウォン、「白鶴・まる900ml紙パック」32,000ウォン、など。
- なお、キリンとアサヒは生ビールがあって、ともに8,500ウォン。サッポロとサントリーは壜のみで、7～8,000ウォン。




- 入らなかったお店だが、日本のSSIの「利き酒師」の認定マークを掲げるお店。西面にて。

「高級」なジャパニーズレストラン




- 「桃山」のお酒メニュー。これは、数ページあるうちの最初の（＝高級サケの）ページ。拡大してもらうと価格が読めるが、いくつか書き出せば、「獺祭・磨き二割三部」520,000ウォン（＝約4万6,800円）、「男山・純米大吟醸」510,000ウォン、「久保田・萬寿」340,000ウォン、「黒龍・大吟醸」280,000ウォン、「上善如水・純米大吟醸」260,000ウォン（以上すべて720mlびん）、と、結構な値段。
- 別ページの焼酎のところには、「赤霧島900ml」195,000ウォン、「黒霧島900ml」110,000ウォン、「白岳・しろ720ml」110,000ウォン、など。
- 「雪花700ml（LOTTE酒類が韓国で作る清酒）」85,000ウォンもある。

# サケ watching in 韓国の釜山 (Busan, Korea) @2016 (3/9ページ)

## 「ロッテ・デパート」のサケ売り場で、日本のサケを観察

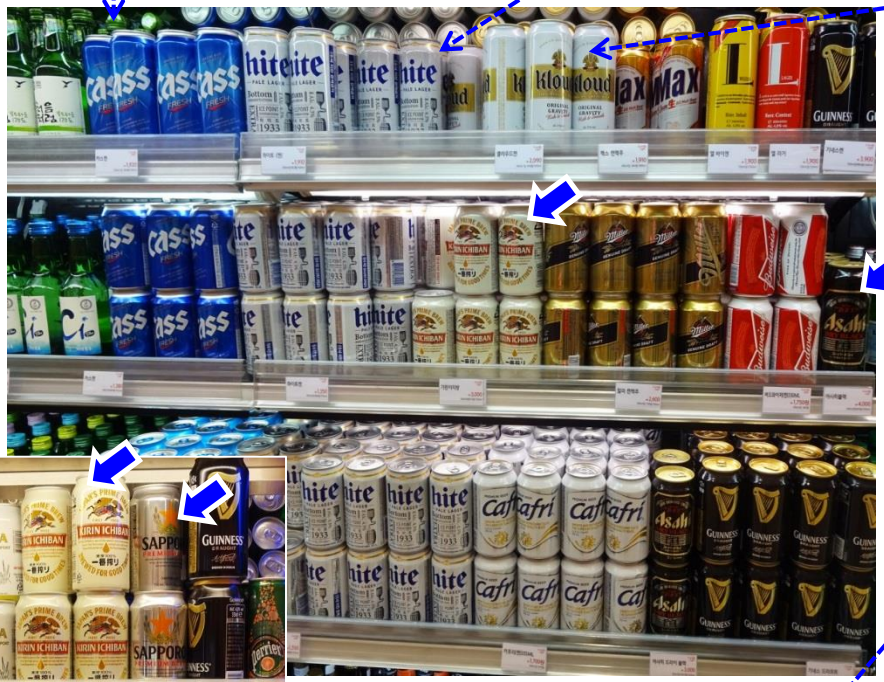
- 釜山中心部には、西面（ソミョン）の「本店」と、観光地の龍頭山近くの「光復店」の二つの大きなロッテ・デパートがある。両店とも、お酒売り場の日本のサケ銘柄は充実していて、管理も行き届いている。
- これは光復店のガラス冷蔵庫のサケ。価格は写真でご覧ください。1ウォン＝約0.09円なので、5万ウォンなら約4,500円。

sake watching in Busan/Korea

# サケ watching in 韓国の釜山 (Busan, Korea) @2016 (4/9ページ)

## 「ロッテ・デパート」のサケ売り場で、「日本のビール」と「韓国の清酒・薬酒」を観察

- キリン、アサヒ、サッポロの缶ビールが並ぶ。350ml缶と500ml缶は、いずれも日本製。缶の印刷表示も日本のまま。びん入りのキリンやアサヒは原産国を確認できなかったが、以前、ソウルのロッテで見たときには中国製だった。なお、サントリーはなかった。価格は写真を拡大すれば見ることができます。
- 韓国は「CASS」(OBビール社、AB InBev傘下)と「HITE」(ハイト・ジンロ社)の2社寡占だったが、2014年にロッテが「KLOUD」ブランドで参入。意外にも一気に相当なシェアを確保したようだ。大学で習う寡占状態の経済理論に該当しない事例。



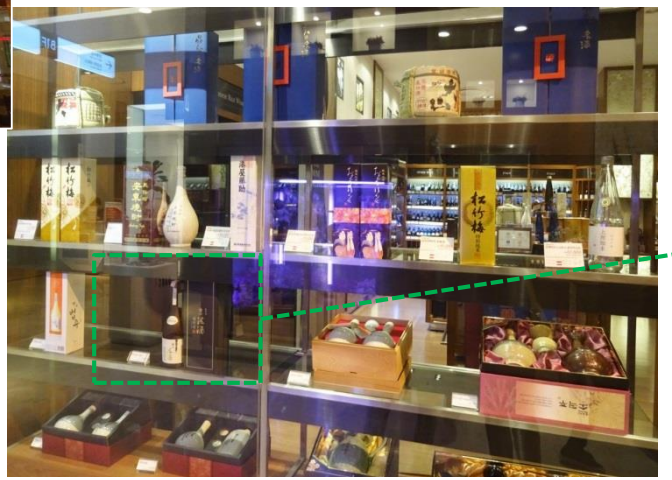
- 韓国でロッテ酒類が製造する清酒(チョンジュ)2種を観察。「白花寿福」(ペカスボク、パッケージから漢字がほとんどなくなったのでわかりにくいが)と、「清」のラベルですぐわかる「清河」(チョンハ)。なお、ロッテ酒類は紙パックのお酒は造っていない(昔一度造ったそうだがやめた)そう。賢明である。
- これは、韓国の酒類のカテゴリーで「薬酒(ヤクジュ)」のお酒。白花寿福の横に売られている。「清酒」と「薬酒」は余り区分されていないようだ。。。→次ページ参照

sake watching in Busan/Korea

# サケ watching in 韓国の釜山 (Busan, Korea) @2016 (5/9ページ)

## 「ロッテ・デパート」のサケ売り場で、韓国の「薬酒」を観察

- ロッテ・デパート光復店」では、日本のサケ売り場に、韓国の「慶州法酒」も売られていた。「慶州法酒」は、カテゴリーとしては「薬酒」（薬用酒ではなく、米からつくった透明な酒をさす言葉）になる。
- ラベルには漢字で「慶州法酒」のほか、「純米酒」「超特選」の表記があって、日本酒と似た外観。価格は700mlびん40,800ウォン、高級品の位置づけ。



## 韓国の「薬酒」を観察、その2

- 左の写真は、雑誌に出ていた韓国の慶州法酒、「花郎」（ファーラン）の広告。ソウルで2008年に行われたOECD会議の公式晩餐のお酒に選ばれたもの。もち米100%でつくる純米酒で、韓国では「薬酒」のカテゴリーになる。
- 右はカナダのウェブサイトで見た「花郎」。ラベルに「Korean Junmai Daiginjo Sake 」（韓国・純米大吟醸・サケ）とかかれている。韓国の「薬酒」は輸出されて「サケ」になっている場合があることがわかる。
- 「アメリカに輸出する日本の本格焼酎の多くがSoju（韓国焼酒）を名乗る」のだから、「カナダに輸出する韓国の薬酒にSakeを名乗る」ものがあっても責められない気がする。
- 安価な日本の「合成清酒」が輸出されてSakeになっているケースにくらべれば、この「薬酒」は純米で比較的高価。むしろベター？

→ サケ watching in 韓国の釜山 (Busan, Korea) 歴史編に続く.....